平成 20 年度　事務事業評価シート(平成 19 年度実施事業)

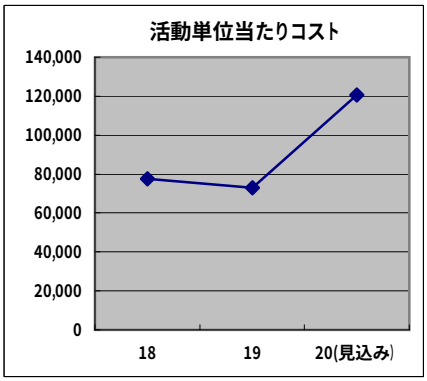
整理番号	土維03

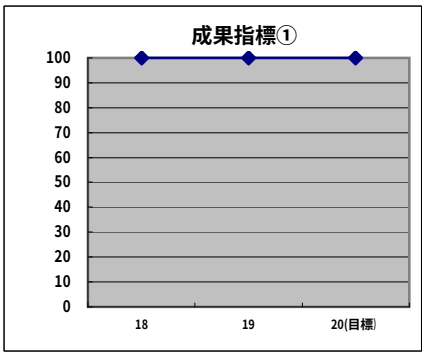
事務事業名	公園・児童遊園維持管理事業			予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		款	8 土木費
					項	1 土木管理費
	施策(節)	10	公園・緑地・緑化		目	2 維持管理費
					事業	1 維持管理
	施策の方向			作成部署		土木部維持管理課
関連する計画等				連絡先		072 - 958 - 1111　内線 2910

事業の目的	対象（誰を・何を）
	公園・児童遊園
	意図（どういう状態にしたいのか）
	安全、安心、快適に利用できるようにする。
事業の内容	公園施設の維持管理 ①遊具等の点検、修繕 ②園内の清掃、除草、樹木の剪定・消毒 ③公園維持管理に関する苦情等の対応 ④公園パトロール
根拠法令等	都市公園法
事業開始時期	☑ 昭和　☐ 平成 52 年　月開始　☐ 明確にはわからない　終了年度　平成　年度
事業開始時からの状況変化	遊具用品の老朽化に伴い、撤去・修繕件数が増加している。
市民や議会の要望	遊具の安全対策についての要望がある。
実施手法	☐ 直営　☑ 一部委託　☐ 全部委託　☐ 補助金・助成金　☐ その他(　　)
委託先	☑ 外郭団体委託　名称　(社)シルバー人材センター ☐ 民間委託
委託内容	樹木剪定業務

区分		18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(見込み)
事業費【1】	(千円)	9,028	14,070	12,675
人件費【2】	(千円)	44,550	35,750	31,150
職員数	正規職員	5.25 人	4.15 人	3.55 人
	再任用職員	0.00 人	0.20 人	0.40 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.25 人	0.25 人	0.25 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】	(千円)	53,578	49,820	43,825
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	53,578	49,820	43,825

活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	18年度	19年度	20年度(目標)
① 作業実施件数	件	692	683	363
② 依頼（苦情）受付件数	件	524	487	294
③ 自主作業件数	件	168	196	69
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		77,425 円	72,943 円	120,730 円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		445 円	415 円	366 円





成果指標（事業目的の達成度を測る指標）	指標名	指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	達成率(%)	平成20年度
①	作業実施率（%） (式)　作業実施件数÷（依頼件数＋自主作業件数）×100	緊急性や優先順位の高い依頼等に対して適正に実施することが成果	目標	100.0	100.0	100.0%	100.0
			実績	100.0	100.0		-
②	事故発生件数（件） (式)	遊具等公園維持管理上の事故件数	目標	0	0	100.0%	0
			実績	0	0		-

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	都市公園の管理については、法令により、地方公共団体が行うものと定められており、市が実施すべき事業である。
	○	○		○							

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	公園は、環境や防災の観点から市民にとって重要な施設であり、公園を維持管理することは時宜性を得ており、妥当である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☑	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☑	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☑	☐	☐	
		緊急性が認められる	☑	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	簡易な補修等は職員で迅速に行い、それ以外のものについては、外部に委託することにより、経費の節減に努めている。 今後、民間への業務委託を拡大することにより、さらなる事務処理の効率化と、職員及び経費の削減を図ることが可能と考える。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☑	
		人員を削減する余地がない	☐	☑	☐	
		事業費を削減する余地がない	☐	☑	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☐	☑	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☐	☑	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	安全、安心、快適に利用できる都市公園を提供するうえで、貢献度が高い。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☑	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☑	公園の清掃等の簡易な作業について、地元住民の協力を得て実施しており、今後も市民協働による管理を推進する必要がある。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☑	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☑	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☑	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	☐	☐	依頼・苦情に対しては、全て迅速に対応しており、安全管理を含め、適切な維持管理を行っている。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☑	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☑	☐	☐	

担当部局評価

総合評価

☐ 拡大・充実　☑ 現状維持　☐ 方法改善　☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了

評価の理由

市民の憩いの場所である公園を安全かつ快適に利用できる施設として、継続的に維持管理する必要がある。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

今後も適切な維持管理に努めるとともに、地域住民が公園づくりや管理運営に幅広く参加できる仕組みづくりを検討する。